

モチベーション爆上がりの朝

校 長 武井 正明

昨日いつものように生徒玄関で、朝の挨拶をしていると「校長先生～」と、先月自転車のカギを紛失し途方に暮れ、絶望の末、ワークを振ったら落ちて出てきたという、まるでコントのオチのようなひとときを共にした1年男子の彼が声を掛けてくれた。私は、会話に意外性のある彼と話すのが、実は密かな楽しみになっている。

「おう、おはよう！」「金曜日の『校長 vision』のことなんですけどお…」

「ん？どうした？」「なんで佐々木朗希見られたんですか？」

えっ？…最初は、彼の言っている意味がよくわからなかった。

「…家のカギも車の中にあっただすよね？…」

…そうかそうか…、確かにそうだ。家のカギを車に入れた、ということは家に入れないということではないか。私の文には「妻も仕事」と書いてあった。つまり、あの表現では、妻が既に仕事に出掛けて行ったという形で読み手に伝わってしまうわけだ。

実際は、妻はまだ出掛ける前だった。だからまだ助かった。私は家の中には入ることができて、テレビをつけて佐々木朗希を見る事ができたのだ。あれがもし、妻が出掛けた後で、さらに家にカギをかけた後に、車に全部入れてロックしてしまったとしたら、ダメージはもっと深刻かつ悲劇（喜劇）的なものになっていたに違いない。

彼にその経緯を説明すると「そうだったんですか！」と、やっと合点がいったように納得して、大きく頷いてくれた。

たったそれだけのこと。ほんの僅かな朝のやりとり。

でも私は、それがとっても嬉しかった。

ひとつは、私の文章を読んで、わからないところをそのままにせず、私に訊いてくれた事。実はこれ、燕市で特に力を入れている、読解力向上への第一歩なのです。

きちんと丁寧に文章を読み込んで、前後の繋がりや、表現されている内容、主語述語を理解する。そして、よくわからない点があったら、そのままにせずしっかり確認して再度読み込む。その姿勢、とても素晴らしい～っ!!

そしてもうひとつ。これがやっぱり一番嬉しかった。

それは、あなたがこんなにも「校長 vision」を熟読してくれていたことです。

書き手にとって、こんなにありがたいことはありません。

朝のほんの一瞬の会話のおかげで、やることが山積みになっていた一日でしたが、楽しくポジティブに、しあわせな気分で一日をスタートする事ができました。こんなかわいい読者のおかげで、ますますモチベーションが上がりました。

これからも、湧き出る思いを一生懸命書きます。どうぞご愛読ください!!